



「信州のお寺」(1961年・個人蔵)

信州大学 教育学部

信大教育学部前



「ポプラのある広場」(1964年・信州新町美術館)

長野県町教会

トイゴ

もんぜんぶら座

丸光デパート跡

●JAビル

よこいさんが特に愛した
南県町界隈・県町通り

善光寺

城山公園

長野県立
美術館

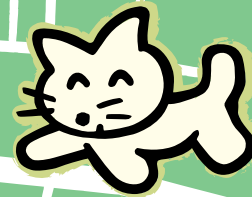
城山
小学校

大勧進

大本願

善光寺

大門



「観覧車の見ゆる時計店」(1960年・個人蔵)

ながのしアチコチ よこいさ〜ん

・横井弘三 没後60年展

◆主催：信州新町美術館 ◆協力：横井弘三とオモチャン会

入館料

大人 500円・高校生 300円・小中学生 200円
(1/3は入館無料・土曜日は小中学生無料)

休館日

月曜日(祝日の場合は開館)・祝休日の翌日
年末年始(12/29~1/3)

会場

信州新町美術館 第2・第3展示室

2025.

2026.

10月18日^土~1月25日^日

9:00~16:30 (入館は16:00まで)

信州新町美術館

〒381-2404 長野県長野市信州新町上条 88-3
TEL : 026-262-3500 / FAX : 026-262-5181
e-mail : shinmachi-museum@ngn.janis.or.jp



長野市ゆかりの画家・横井弘三の没後60年を記念し開催する展覧会です。

横井弘三（1889－1965）は、長野県飯田市に生まれ、早稲田大学商学部を中退後、独学で油絵の技術を身につけ芸術の道へ進みました。大正期初め、初出品で二科展樗牛賞を受賞、一躍画壇の寵児となり注目を浴びました。その後も二科で受賞を重ね活躍、素朴で情愛にあふれた作風で高い評価を受け、時に「日本のアンリ・ルソー」などとも呼ばれました。しかしその独創的で奔放な芸術活動が、当時の画壇とは馴染まず、横井は二科会を離れ、自らアンデパンダン展を開催するなど独自の芸術を創造していきました。1944（昭和19）年、長野市へ疎開。横井の気さくで馴染みやすい人柄は信州の人々から愛され「よこいさ〜ん」と親しみをもって呼ばれました。また物心両面にわたる支援も受け、そのお礼の気持ちとして横井はお世話になった方々へ絵をプレゼントしたのです。特に、終の棲家となった長野市南県町、招聘され長期間制作に励んだ信州新町などには、今でも多くの作品が残されており、その一点一点に所有者と「よこいさ〜ん」とのエピソードが詰まっています。

本展は、横井弘三を顕彰する「横井弘三とオモチャン会」の協力を得て、横井が歩いた善光寺界限、南県町界限、信州新町地域の3地区から思い出深い作品を選び、「よこいさ〜ん」と長野の人々との交流の一端を紹介します。



「長野県町教会と旭山」（制作年不詳・長野県町教会）



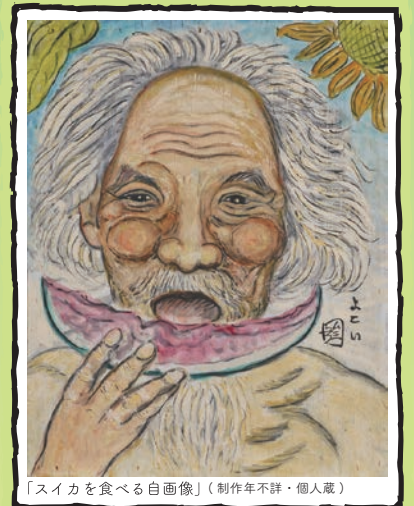
「パンを食べる子ども」（1945-50年・個人蔵）



「裾花館」（制作年不詳・個人蔵）



「小笠原嶋母嶋沖港遠望」（1961年・個人蔵）

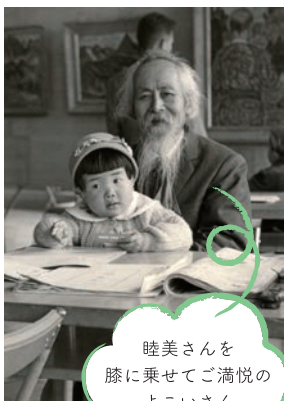


「スイカを食べる自画像」（制作年不詳・個人蔵）

ギャラリートーク

わが家の「よこいさ〜ん」を語る

11月23日（日）：14時～（約40分）
※申込不要・参加無料（別途入館料）



睦美さんを膝に乗せてご満悦のよこいさん

◆羽田睦美さん

（横井弘三とオモチャン会）

横井弘三の友人・中村茂八の孫娘。中村家は明治初期から製麴業を営む。当主の茂八は絵描きを志したほど美術好きだった。昭和31年に裾花館に住み始めた横井と茂八はすぐに意気投合し、横井は毎日のように「なっかむらさ〜ん」と訪ねた。茂八は尊敬する横井のために知人にも呼び掛けて積極的に応援した。『わが家のよこいさ〜ん』2011年 横井弘三とオモチャン会刊 より引用）



「二人展(昭和36年)」を開催した時のよこいさん(左)と茂八さん(右)

学芸員による展示解説

- ・10月25日（土）
- ・11月29日（土）
- ・12月20日（土）

10時30分～（約30分）

※申込不要・参加無料（別途入館料）
※毎週土曜日は小・中学生入館無料。



信州新町美術館

〒381-2404 長野県長野市信州新町上条 88-3

TEL: 026-262-3500

アクセス

- 〈車〉国道19号線沿い、長野より40分、松本より約1時間（無料駐車場50台）
- 〈高速〉上信越自動車道「長野1.C」より約40分、長野自動車道「安曇野1.C」より約50分
- 〈電車〉最寄駅は「JR長野駅」
- 〈バス〉長野駅善光寺口バス乗り場②からアルピコ交通（株）「信州新町大原橋線」乗車約40分「新町美術館前」下車、徒歩1分

